

## 第1 基本方針

本県は全国有数の茶生産県であり、中山間地域における農業の基幹作物として、蒸製玉緑茶、煎茶、釜炒り茶製玉緑茶の三茶種が生産されている。今後、地域性を活かした特徴ある高品質茶生産により、茶業経営の安定的発展が強く求められている。

本県の茶作付品種はその8割強を「やぶきた」が占めているが、樹齢構成では30年を経過した茶園が全体の3割を超えるなど、茶園の高樹齢化が進行しているとともに、一品種独占に伴い、摘採時期が集中し、摘採遅れによる荒茶品質や収量の低下が認められるなど、茶業振興上、早急に解決すべき問題を抱えている。

また、近年の気象変動に伴う干ばつや低温などの影響が、茶の生育、収量、品質への不安定化として顕在化しつつあり、特に干ばつでは水資源の制限等により、十分なかん水が実施できない茶園が多いため、県産茶の収量、品質を妨げる要因となっている。

一方、近年の経済不況の影響や、緑茶需要の落ち込み等による茶価低迷と資材価格の高騰は、生産者の経営を圧迫しており、今後、新たな市場評価基準に適した高価格茶生産を行うことで経営安定化を図る必要がある。

さらに、平成23年に本県で初めて発生が確認された侵入害虫チャトゲコナジラミは、棲息域が拡大傾向にあることから、効果的で、環境負荷及び経済負担の小さい防除技術の確立が喫緊の課題である。

試験研究の推進にあたっては、関係機関との連携、協調を図りながら、県内茶業の技術的課題を的確かつ迅速に把握するとともに、「売れる茶」づくりのための支援技術を確立し、「くまもと茶」ブランド力向上と茶生産農家の経営安定を実現する。

## 第2 重要研究事項

### 1 売れる茶づくりに対応した品種の育成及び選定

香味に特徴のある系統など売れるお茶づくりに対応した熊本県オリジナル品種の育成、及び耐寒性の高い早生系統の収集、選抜等、優良品種の生育特性解明、栽培・製造技術を開発する。

### 2 気象災害を軽減する栽培管理技術の開発

近年は、干ばつや急激な低温が茶の生育に深刻な影響を及ぼすため、干ばつ時の土壌水分の変動や萌芽期の耐凍性が茶樹に与える影響を調査し、対策の要否を判定する指標の作成、及び現地で取り組みやすい茶園管理技術を開発する。

### 3 市場流通に対応した高品質茶生産技術の開発

消費者の嗜好の変化に伴い、市場において流通する緑茶はその評価も変化し、またアミノ酸含量を基準値とした商品の区別化も進んできている。そのため、市場において高い評価が得られる「鮮やかな水色」、及び「高アミノ酸含量」を目指した高品質茶の栽培、製造技術を開発する。

### 4 環境負荷低減と食の安全性に配慮した茶生産技術の開発

侵入害虫である「チャトゲコナジラミ」は、今後、棲息域が県内全域に拡大することが想定され、また、防除回数の増加による環境負荷の増大や生産者への経営圧迫等も懸念される。そこで、本県の気候や作業条件に応じた効果的、効率的な防除体系を確立する。

### 第3 試験研究課題一覧

【茶業研究所】

部門	大課題	中課題	予算		小課題	試験期間
			金額	区分		
茶業	1. 多彩なくまもと農業の魅力を発信できる新品種の開発・選定	<b>組替</b> (1) 生産性・品質に優れた新品種の選抜・育成	813	県単	① 香味特性を有する系統の育成 ② 耐寒性の高い早生系統の選抜・育成 ③ 新改植に適した優良品種の選定（新品種の地域適応性検定）	H26～H28 H26～H28 H26～H28
	2. 稼げる農業を目指した革新的な生産技術の開発	(1) 茶の病虫害予察	農業技術課	令達	① 病虫害発生予察調査	S40～継続
		<b>新規</b> (2) 干ばつ・凍霜害に対応した茶園栽培管理技術の開発	642	県単	① 干ばつ発生期の茶園診断・管理技術の開発 ② 凍霜害発生期における新芽耐凍性の簡易検定法の確立	H27～H29 H27～H29
		(3) 新たな市場評価基準に適した高価格茶生産技術の確立	1,040	県単	① 被覆法の検討 ② 施肥法の検討	H24～H27 H24～H27
3. 環境にやさしい農業（くまもとグリーン農業）の推進を加速する技術の開発	(1) 侵入害虫「チャトゲコナジラミ」の総合防除体系の確立	704	県単	① 環境に配慮した対策	H25～H27	

注) **新規**：本年度から新たに取り組む課題

**組替**：課題設定時の内容を組み替えて設定する課題

**延長**：課題設定時の完了予定年度を延長して設定する課題

**短縮**：課題設定時の完了予定年度を短縮して設定する課題